

行政視察 鈴木靖宏議員

日時：平成29年7月27日(木)～7月29日(土)

場所：北海道網走市、千歳市

区間	交通手段		鉄道賃		特急急行	飛行機	その他	計
			キロ	金額				
佐野駅～羽田空港国内線ターミナル駅	鉄道	往復	223.4	3,260	2,060			5,320
羽田空港～女満別空港	飛行機	往	1,156.0			29,890		29,890
西女満別駅～呼人駅	鉄道	往	12.8	260				260
呼人駅～千歳駅	鉄道	往	407.4	7,120	3,110			10,230
千歳駅前～フードD5前	バス	往復	5.0				380	380
千歳駅～新千歳空港駅	鉄道	復	5.6	350				350
新千歳空港～羽田空港	飛行機	復	894.0			35,590		35,590
								0
								0
計				10,990	5,170	65,480	380	82,020

宿泊料@16,500×2泊	33,000 円
---------------	----------

交通費	82,020 円
-----	----------

(うち航空運賃)	65,480 円)
----------	-----------

計	115,020 円
---	-----------

上記の金額は、佐野市職員等の旅費に関する条例及び佐野市職員等の旅費支給規則により算出した金額である。

議事課庶務係長 関口 一也



行政視察 鈴木靖宏 議員

日時：平成30年2月1日(木)～2月3日(土)

場所：鹿児島県奄美市、沖縄県沖縄市

区間	交通手段		鉄道賃		特急急行	飛行機	その他	計
			キロ	金額				
佐野駅～羽田空港国内線ターミナル駅	鉄道	往復	223.4	3,260	2,060			5,320
羽田空港～鹿児島空港	飛行機	往	1,111.0			25,690		25,690
鹿児島空港～奄美空港	飛行機	往	467.0			14,900		14,900
奄美空港～奄美パーク	バス	往復	5.2				400	400
奄美空港～那覇空港	飛行機	往	390.0			15,700		15,700
那覇空港～胡屋	バス	往復	59.2				1,960	1,960
那覇空港～羽田空港	飛行機	復	1,687.0			37,290		37,290
								0
								0
								0
								0
								0
	計			3,260	2,060	93,580	2,360	101,260

宿泊料@16,500×2泊	33,000 円
交通費	101,260 円
(うち航空運賃)	93,580 円)
計	134,260 円

上記の金額は、佐野市職員等の旅費に関する条例及び佐野市職員等の旅費支給規則により算出した金額である。

議事課庶務係長 関口 一也



蒼生会行政視察報告書

期日：平成 29 年 7 月 27 日～29 日

場所：北海道網走市、千歳市

参加者：飯田昌弘、高橋功、鈴木靖宏、久保貴洋 同行：小倉健一

7 月 27 日（木）場所：網走市スポーツトレーニングフィールド

題材：スポーツ合宿の取り組みについて

担当：網走市議会事務局次長 細川英司様、市議会副議長渡部眞美様

説明員：教育委員会社会教育部次長 岩本博隆様

概要

網走市はオホーツク総合振興局東部に位置し、丘陵地多く、市街地は網走川河口付近とその南側に続く海岸段丘上の平地にある。市域は「網走国定公園」の一部となっている。総面積 471.00 k m²、総人口 36,370 人の街である。

市では、スポーツ・ツーリズムの推進に取り組み、『活力と交流を生むスポーツ環境を全国へ発信』を掲げ、北海道を代表するスポーツ合宿地として、ラグビー、陸上、バイアスロン、野球、スキーなど毎年約 1,700 人のトップアスリートが訪れるまちとなっています。

約 25 年前、ソウル五輪出場チームの直前合宿の受け入れを機に土台作りが始まり、網走ならではの付加価値を着実に高めてきた成果といえます。

網走がスポーツ合宿地として高く評価される最大の理由はトレーニング環境です。ラグビー日本代表チームスタッフから「日本一の芝生」と絶賛された網走スポーツ・トレーニングフィールドは、41.4 ha の敷地にラグビー、サッカー場などのコート 7 面、テニスコート 16 面、野球場、多目的屋内ドーム（人工芝）などを配備。市内には第 3 種公認陸上競技場（全天候型舗装）、総合体育館、プール（日本水泳連盟認定）などの体育施設も充実しています。

スポーツ合宿の取り組みによる経済効果は、年 5 億円以上にのぼり、長年のスポーツ合宿受け入れによって培った市民の“スポーツ愛好心や地域ぐるみのおもてなし力”は網走の大きな財産となっています。

網走市では、こうした優位性を生かしてまちの魅力をさらに高めようと、スポーツ・ツーリズムの推進に取り組んでいます。ランニングやウォーキングなど戸外の魅力を楽しむスポーツに、網走ならではの自然景観と食などを組み合わせ、独自性のある観光メニューを発信しています。

また、平成 31 年日本で開催されるラグビーワールドカップのベースキャンプ地として申請を予定しています。

質疑

Q1.現在までの概算の投資金額と補助金の活用、整備効果についてお伺いします。

A.施設概要

昭和 63 年度～平成 4 年度 (5 か年計画)、B B Q コーナー、トイレ平成 5 年～8 年度、投てき練習場平成 19 年度

事業費 36 億円 (起債 27.5 億円、道補助金 2 億円、一般財源 6.5 億円)

用地面積 38.7ha (東京ドーム 9 個分)

施設概要 ラグビー場 1 面、サッカー場 2 面、多目的広場 3 面 (計 6 面、ラグビー、サッカーで利用可)、テニスコート 16 面、アーチェリー場 1 4 的、ゲートボール場 4 面、ランニングコース、ローラースケート場、ゴーカートコース、おもしろ自転車コース、パークゴルフ場、幼児公園、花の広場、センターハウス 1 棟、駐車場 3 か所

管理運営 平成 20 年度から指定管理者制度 13,177 千円

芝生管理別途委託 芝生管理組合 41,409 千円 (14ha)

使用料収入 6,421 千円

利用状況 平成 27 年度 54,416 名、平成 28 年度 64,076 名

実績：実人員 1,784 人 延べ 16,505 泊

経済効果：578,800 千円

予算：9,500 千円 (網走市補助金)

内容：①航空券・宿泊・レンタカーの斡旋、仲介

②トレーニング施設のスケジュール調整

③女満別空港<->ホテル 送迎の手配及び経費負担

④ホテル<->練習場 同

⑤練習会場使用料の減免

⑥地場産品の差し入れ

Q2.スポーツ愛好心や地域ぐるみのおもてなし力について

A.ラグビー1クラブの合宿を受けるには70名一度に入る部屋が2部屋必要となるそうです。初めは半信半疑だったホテルが全面協力していただけるようになって7チームが同時に合宿ができるようになったそうです。打ち上げには地元の焼き肉屋や寿司屋の多くの店が満席となるそうです。お土産も地元のもものが喜ばれ常連として毎年来ていただけるようおもてなしの心を大切にしています。

Q3.今後の方向性と将来の網走市のあるべき姿(夢)についてお聞かせください。

A.7月22日(土)2017オホーツクラグビーフェスティバルin網走を開催

東芝・神戸製鋼タグラグビースクール、東芝VS神戸製鋼、サントリーVSトヨタ、リコー VS NTTドコモ、コカ・コーラ VS NECの4練習試合が行われました。陸上競技でも670名の合宿参加者です。現状を維持し合宿参加者がリピーターとなって今後も来ていただけるよう努力してまいります。

7月28日（金）場所：千歳市防災学習センター「そなえーる」

題材：防災学習センター「そなえーる」について

担当：千歳市議会事務局総務課調査係 青山 聡様

説明員：防災学習交流施設副施設長 里村貞治様

概要

千歳市は石狩平野の南端に位置し、国立公園支笏湖や清流千歳川などの豊富な自然環境に囲まれ、四季の移ろいを感じることができる住環境と交通アクセスや生活利便性に優れた都市環境が調和する道央圏の中核都市です。

特に新千歳空港の平成27年度乗降客数は2,082万人を記録し過去最高でした。海外からの旅客数が好調に推移し、北海道内の地域活性化、観光振興などにつながっていくと期待されています。

人口は95,664人、40614世帯。総面積は59,450ha。人口増加数が北海道第2位となり、平成32年度の目標を97,000人と掲げて企業誘致の推進などによる雇用の創出、観光資源を生かした交流人口の拡大、子育て支援や教育環境の充実など、様々な定住促進策を着実に推進し、目標人口の達成を目指しています。

千歳市防災学習センター『そなえーる』は、災害を「学ぶ・体験する・備える」をキーワードに、いろいろな災害の疑似体験をしながら、防災に関する知識や災害が発生した時の行動を学ぶことができます。

また、防災講座や救急講習、千歳市内町内会（自主防災組織）などを対象に各種防災学習のメニューを用意し、訓練など防災学習の拠点施設としても活用されています。

質疑応答

Q1.『そなえーる』の市としての位置づけと市民からの評価について

A.平成14年度防衛施設周辺地域の発展に貢献するよう新たな国の高額補助制度「まちづくり構想策定支援事業」が創設され、戦車を通るC経路沿道の騒音、振動問題の解決を図るとともに、総合計画で位置づけている総合的な防災対策の推進や自主防災組織の充実などの観点から、住民要望や住民懇談会での議論を踏まえて施設整備を防衛施設庁に要望し、採択され、防衛施設と共存した災害に強い安全なまちづくりを進めています。

総事業費は約21億円、国庫補助率75%、残り25%は起債75%、市費25%。

Aゾーンは広さ4.3ha、3階建て延べ床面積2,300㎡「そなえーる」

Bゾーンは1.1ha、雨水調整池と消化体験を通し自助・共助の「学びの広場」

Cゾーンは3ha、野営生活訓練広場、多目的広場、河川災害訓練広場、土嚢訓練広場、サバイバル訓練広場、管理棟、駐車場等の「防災の森」です。

Q2.年間の経費と利用実績（児童生徒、自主防災組織等）

A.施設管理は、1種非常勤職員4名、臨時職員5名の9名で、施設管理・屋外管理及び施設の説明並びに展示場の案内業務を実施。5月から10月は「防災の森」オープンのため、臨時職員3名採用。

利用状況は平成23年度が58,393人で最高、去年は39,526人でした。開設からの利用者は30万人を突破しています。

Q3.今後の運営と留意点について

A.近年全国各地で頻発している地震を教訓に、千歳市総合防災訓練や町内会、自主防災組織等による消火・救出等の防災訓練、市民を対象とした千歳市民防災講座、防災イベントなどを開催し、防火・防災に対する意識向上に取り組んでまいります。

また、市民や市内の小中学生には、災害から自分の身を守る自助や共助、公助などについて防災学習や災害模擬体験などを通じて学んでいただき、防災に対する関心がより一層高まるとともに市民、自主防災組織や防災関係機関の意識付けを図る取り組みを進めてまいります。

考察

地震体験コーナーで阪神淡路大震災、東日本大震災の地震の模擬体験をしました。棒にしっかりつかまってくださいと言われました。本当に棒がなければ立ってられないほどの揺れでした。貴重な体験ができました。

広さ、施設・設備どれをとっても真似することは出来かねますが災害から身を守る自助・共助・公助についての防災学習や防災訓練は可能と考えますので創意工夫して実施したいものです。

蒼生会行政視察報告書

日時：平成30年2月1日（木）～3日（土）

出席者：飯田昌弘、鈴木靖宏、久保貴洋、高橋功

場所：奄美市、奄美パーク 田中一村記念美術館

：沖縄市、沖縄市役所

2月1日：田中一村記念美術館 学芸専門員 前野耕一様

概要：奄美の自然を描いた日本画家田中一村のコレクションを常設展示している美術館です。地元の素材をふんだんに使い、奄美の高倉をイメージした展示室には、一村の東京時代、千葉時代、奄美時代の作品約80点が展示してあり、日本画家田中一村の画業に触れることができます。その他、館内の企画展示室では、奄美にちなんだ催し物も開催しています。

トリップアドバイザー上で過去1年間に渡り5点評価のうち4以上を維持し、素晴らしい口コミを一貫して得ている施設に贈られる賞である「2017年エクセレンス認証」に認定されています。また、Facebook ページ・Instagram アカウントも作成されています。

企画展示室は、日常から美術活動や学習に積極的に取り組んでいる地域住民等の研鑽の成果としての美術作品を発表する機会を提供することにより、一人でも多くの人に美術を愛好する喜びや楽しさを実感してもらい、地域の健全な美術活動を促進し、奄美群島の美術文化の発展に資することを目的として、企画展示室の貸し出しを行っています。

考察：千葉時代に当市の丹波屋で絵の即売会が模様されたそうです。作品に対する評価に対しての葛藤で売れることをほとんどしなかった田中一村の生活が一部覗けました。奄美に渡ってから色調に変化が表れています。気候風土や周りの人たちの心遣いでのびのびとできたのでしょう。素晴らしい作品に感動しました。田村耕一記念館も駐車場が完備した場所を考えるべきかもしれません。

2月2日：沖縄市役所：中心市街地活性化基本計画

沖縄市議会事務局議事課長中村厚夫様、金城優一様、

経済文化部商工振興課長普久原徹様、中心市街地活性化係前當昌貴様

企業誘致課課長補佐柴田倫子様、NPOコザまち社中総務崎原徹様

概要：沖縄市は、沖縄本島のほぼ中央部に位置する人口約13万人、市域面積49k㎡、平成17年度国税調査において15歳未満の年少人口の割合が全国一高い都市であります。

市域面積のうち約36%を米軍基地が占めており、戦後27年間に及ぶ米軍統治下で、基地からの様々な影響を受けながら、広大な嘉手納基地の門前町として基地経済に支えられ、急速な発展を遂げてきました。

1974年にコザ市と美里村が合併し沖縄市が誕生、沖縄県をリードする国際文化都市の実現をめざし、新たなまちづくりに努力を重ね続けてきた歴史があり

ます。

中心市街地の課題1：豊かな地域資源を生かした中心市街地の再生

戦後、「基地経済」に支えられ、海外文化の影響を色濃く反映してきたことから、沖縄県下でも独特とされる「コザ文化」を育み、音楽・芸能をはじめとした生活様式に至るまで、来街者を惹きつけてやまないコザ地域固有の文化資源を豊富に有しております。

また、米軍駐留という歴史的背景のもとで形成された国道沿線に連なる带状型の中心市街地には、コザ中十字路地域・胡屋十字路地域・山里地域それぞれの地域性を生かした異なる商業機能を発達させてきました。

恵まれた地域資源を積極的に活用し、「コザ」らしい魅力を高めることにより、他の地域と一線を画した個性的なまちづくりによる差別化を図った中心市街地の再生が課題となっています。

課題2：住みたい・住み続けたい中心市街地への再生

中心市街地は、都市機能がコンパクトに集積しているとともに、年少人口比が全国一高いことからこどものための施設、さらに、盛んであったスポーツ及びその場となる施設など、多面的な都市機能に資する資源を豊富に抱えている。

この優位性を生かしながら居住ストックの確保はもとより、市民ニーズに基づくより幅広い視点でのまちづくりが重要であると考え、多面的な都市機能を充実させることで街全体の魅力を向上させ、住みたい・住み続けたいと思える中心市街地を実現していくこと

基本方針と数値目標

基本方針1.コザ文化の継承と発展によるにぎわいづくり

目標1：コザ文化を基軸としたまちなか交流の促進によるにぎわいの創造

目標指標1 歩行者通行量（休日）

現況値（H21年）：5,964人——目標値（H26年）：6,302人

現状（H26）：8,866人——目標値（H32）9,380人

基本方針2.住む人目線での良好な生活空間の創出

目標1：中心市街地全体としての付加価値の向上による生活環境の改善

目標指標2 都市福利施設の年間利用者数

現況値（H26年）：448,961人——目標値（H32年）：683,207人

基本計画掲載総事業78事業を推進。うち認定事業34事業、民間等事業25事業平成8年4月～平成33年3月を計画期間として第2期中心市街地基本計画が行われています。

考察：居住人口は減少傾向にありますが旧市街地の中の空き店舗を活用したダイニングで食事をとらせていただきました。客が満杯となり中心市街地にもにぎわいが戻っていることを実感しました。